

Handsome



発行人：鳥取県西部中小企業青年中央会 会長 水 康德 編集責任者：桶村清子 34期広報委員会 印刷所：東京印刷株式会社

(会長今年の初夢)

鳥取から 日本を変える

旧年中は、鳥取県中小企業団体中央会をはじめOB会員の皆様、そして各関係機関及び会員所属企業ならびにご家族の皆様、様々な方に当会活動に格別なるご支援、ご協力を賜り、厚く御礼申し上げます。本年も変わらずよろしくお願ひ申し上げます。

2008年を表す漢字として「変」という字が選ばれました。前年に続く首相の交代、大きく変動をしたガソリン価格、株価暴落や急激な円高ドル安、ゲリラ豪雨などの気候異変、脅かされる食の安全、理解し難い陰惨な事件の数々、我々を取り巻く環境はめまぐるしく変化を続けました。既存の仕組みや体制の限界を感じる1年でした。

今年度テーマ『Neo Standard～新しい時代のあるべき姿』とは既存の仕組みや体制、価値観から脱却し、再度本質を見つめ直すことから始まります。このテーマのもと、『変革～Change the Concept～』をスローガンに各委員会には鳥取県西部の将来像を考えた活動を行っています。各委員会とも個性が徐々に現れてきており、後期は、委員会の中でこれまでに温めてきた活動内容が実行に移され、ますます各委員長の色が色濃く鮮やかに出てくるのではないかと楽しみにしております。会員の皆様には引き続き、委員会活動への積極的な参加をお願い致します。

さて、当会も今年で35周年を迎えます。30年の節目を終え、今まで活動してきたことが、どのように発展し、展開してきたのか、再び、検証して見る必要があると思います。企業の繁栄・衰退サイクルは一般的に30年と言われており、創業期・繁栄期・成熟期・衰退期のサイクルの中で、30年後、成熟期から衰退期に差し掛かる中で、衰退せず、いかに第二次成長期を作れるかが、企業の存続にかかっているとされています。今こそ『英知・友愛・団結』で当会の未来を切り開かなければなりません。現会員の研鑽はもちろんのこと、当会の歴史を築いて来られたOB会員の皆様や関係各位のご指導、ご鞭撻をお願い致します。

世界的な不況という嵐により地方や中小企業は更に強い向かい風に晒されています。そんな中でも我々は前へ進んでいかなければなりません。『ヨットは向かい風でも進む』と言います。我々は自らの所属する企業や地域にとって、良い舵取り役にならなければなりません。

2009年、皆様のご健勝とご多幸をお祈りすると共に、今後とも一層のご理解とご協力を賜りますようお願い申し上げます。新年のご挨拶とさせていただきます。

会長 水 康德

12月忘年会 不景気なんて吹っ飛ばせ!

平成20年12月15日(月)米子全日空ホテルに於いて、今年を締めくくる忘年例会が開催されました。40名のOB会員と10名の来賓の方々と1年間を振り返り、皆で笑い、そして語り合い、1年間の労を癒して、不景気を吹っ飛ばそうとの思いで総務委員会の掲げたテーマは「皆で笑えば怖くない! 目指せ100パーセント例会! 不景気を吹っ飛ばせ!」と題して盛大に始まりました。開会にあたり、水会長より多数の来賓・OBの方々へのお礼が述べられました。また「中央会は、前例や習慣にとらわれない自由な会ではあるが、自由になり

過ぎない様にOB会員の方々がさとしてくれるのもこうした年に何回かのOB会員と交流出来る場所である」、「今日は、前半期の労をねぎらって、後半期はさらに頑張ってください」と挨拶がありました。続いて、鳥取県中小企業団体中央会を代表して岡田副会長よりご挨拶があり、来

賓を代表して野坂米子市長よりご挨拶を頂きました。宇佐見OB会長からは「中小企業は、厳しい時代だからこそ地域に密着して、地域の仲間作りをして頑張してほしい」と挨拶を述べられました。乾杯の音頭は、中村境港市長から頂き、しばらく歓談となりました。



恒例のアトラクションは、今回は2部構成で行われました。第一部では、片岡靖祐氏による会場巻き込み型のマジックショーです。手品は、みなさんテレビの中でしかなかなか生では、お目にかかれなとあって、とても真剣な面持ちの中でのショーの始まりとなりました。冒頭からトランプマジックで会場を沸かすと、来賓の方の財布の中からお金を借りてのマジックは、いつもテレビで見ているのと何ら変わらない本物のマジックでした。

ショーでOB会員と現役会員の入会当初と今昔の写真を見ながら始まりました。北

口会員の司会で、多くの裏話を小出ししながらの面白トークを交えてのスライドショーは、そこの部分はずっと聞きたいという方も多かったのではないのでしょうか。見せ場であるスライドショーに映っている本人と司会の北口会員との掛け合いがとても面白く、中央会で作られた信頼関係があるからこそ、ここまでぎりぎりの思い出話が披露できるのだというコメントももらいながら、会場を大爆笑の渦に巻き込みました。今忘年例会テーマの「皆で笑えば怖くない」にふさわしく、誰に気を使うこともなく皆で大笑い出来た事はこの忘年例会も大成功だったと言えるのではないのでしょうか。

(記事: 谷口)



続いての人体空中浮体では、始ると同時に会場全員の目を釘付けにすると、その後に空中浮体をしたしこみの生田会員からのタネ明しなどがあり、沢山の笑いをとるなどして会場を大いに盛り上げました。

第2部では、原点回帰型「原点回帰～あの頃君は若かった～」と題してスライド

「相互理解」と「相互交流」に向けた国際交流 講演会について

去る11月27日(木)に境夢みなとタワーにおいて、鳥取県西部地区青年経済団体連絡協議会主催による韓国アウトバウンド講演会(演目:「相互理解」と「相互交流」に向けた交際交流、講師:山陰国際交流連絡会会長の田村健介氏)が行われました。



まず、氏がなぜこのような活動をしているか、という話からされました。氏が海外に興味をもたれたのは小学2年生の時、深夜ラジオから聞こえてくる意味不明の言葉からでした。その言葉が何だったのか?を知りたいが為に、

NHK米子放送局に小学2年生なのに1人で問い合わせに行ったという行動力には驚かされました。その時は結局、それが何だったのかは分らず仕舞い。後にその時の情熱が、大学浪人時代から韓国語(朝鮮半島ではウルマリという)を独学で勉強し始めたきっかけとなったそうです。大学に進んだ氏は、大阪においてさらに在日韓国人について調べ始めます。私自身、朝鮮総連(北)、民団(南)、民団から分裂した韓国民民主統一連合と、それぞれの団体があることを初めて知りました。

炭鉱で強制労働させられるために日本に連れてこられた、自分たちで進んで日本にやってきた、と同じ韓国の人でも意見はバラバラ。結論として、異国日本では被害者として振舞った方が得だ、

という生きてく上での知恵だった、と知らされます。まさに「目からウロコ」の驚かされる話ばかり。複雑な歴史がそこにありました。

山陰国際交流会が今年3月に立ち上がり現在会員数は63名。今年一年で約16回の日韓交流事業に関わって来られました。長年の氏の活動が認められ、今では総連、民団両方の新年会に呼ばれるほどの信頼関係を築いておられます。

多文化共生の大事な所は、とにかくお互いを知る事から始まります。韓国の方の特徴は、プライドが高く、負けず嫌い、うそも方便、スピードが速い、こだわらない、明るくて開放的、上の命令に忠実、などが上げられるそうです。そういう部分を理解し、しっかりと歴史認識をもち知識武装したうえで、相手の意見を聞く。そこで始めて相互理解が生まれるのではないのでしょうか。

よく国際交流はミックスジュースに例えられますが、氏はカレーライスと言われました。じゃがいもはじゃがいもの、肉は肉のうまみを互いに出し合っしておいしいカレーとなる、と。そして、目の前にあるものだけでなく、その人の裏側にある本人も気づいてないような「ニーズ」に気付く。その事がお互いを理解し交流する大きなヒントになる。国際交流の本質も、ビジネスの基本に通じるなと思えた言葉でした。

今後ますます国際交流は大切になってきますが、まずは身近な所から始められてはいかがでしょうか。また講演会後の講師先生を交えた青経連4団体の交流も大変貴重な時間となりました。

(記事:白石)

中央会の思い出



畠山広幸会員

(戦友の小林慎一さん(左)と夏野慎介さん(右))

私は平成11年6月入会、35歳でした。私にとってこの10年間は人生を四季に見立てれば「真夏」の季節だったかもしれません。なにか心の中を加速させるような、熱く躍動するような。でもそれは、スピード感と変化と刺激に満ちたこの会にいたからこそ感じられる、特別な時間感覚なのかもしれません。そして夏といえば皆生トライ

アスロン。「中央会の思い出」というと幾つも幾つもありますが、でも一番はやはり「皆生トライアスロン」との出会いになります。

入会翌月に大会がありました。朝4時皆生に集合、日中は「河端AS」のポイント、AS終了後に再びボランティア本部へ。新入会員は右も左もわからないのに「右へ左へ」とクタクタになるほど動き回りました。

翌年は南順三さんに誘われボランティア部員となり今に至っています。初めての大会のときに大変感動したことは事実ですが、まさかその後ずっとボランティア部において、自分がこれほど入れ込んでしまう事になるとは思いませんでした。ボランティア部はキツイと言われるけれど、私は楽しかった。部長は大変だったけど、それ以上に喜びや感動や充実感・達成感そして自分の成長感もあって、大きな大きな思い出ですね。毎年新しい感動や出会いがいっぱいありました。ありすぎて言葉に尽くしきれないほどです。その中で先輩・友人・後輩たちとの出会いや支えが一番の宝物です。濃密な「エネルギー」を与え合った仲間は、きっとこれからも本気の友人であり続けるだろうと思います。

入会翌月の25周年記念懇親会でみんなで歌った、モンデンモモさんの「ルシエールブルー〜僕の心にできた長い路〜」を急に思い出しました。あれから10年なんだなあ。あの歌のように、長い道の向こうに広がる、澄み切った青い空。あと半年でこの道も終点です。

俳優中村獅童氏も食べてニッコリσ(^_^@)♪

まぐるバーガー



現在米子で撮影が行われている映画「銀色の雨」の制作発表会が11月29日行われました。それに伴い、BIG SHIPにて、懇親会が行われ、たくさんの方が集りました。各団体が地元のうまいものを振る舞うブースが多数出店。その中に我ら中央会からも、まぐるバーガーのブースが出店されました。

まず中村獅童さんの登場に、会場騒然。参加した中央会メンバーも興奮MAX! しかも挨拶の時に、獅童さんの口から「鳥取といえば、松葉かにとまぐるバーガーですよ!!」の嬉しい挨拶が。彼の目の前に、まぐるバーガーの、のぼりが旗めいていたからでは…? という声もあがりましたがそんなことは気にせず。彼の挨拶のおかげか、まぐるバーガーの前には長蛇の列が!!

しかもステージを降りた獅童氏が真っ先にこちらに向かって来るではありませんか!! そして、一言「まぐるバーガー下さい」とニッコリ。バーガーを取って、その場で食べようと大きな口を開けた、その時。中田直前が獅童氏の手からおもむろに、ガバッとバーガーを取り上げました。キョトンとする一同の目前で、サッと焼きたてのパーティで、何事もなかったかのように、一瞬の早業で熱々のまぐるバーガーを作り、獅童氏の手には「はいっ。」と戻したのです。獅童氏から「おいしいですね」の一言。一同感激する中、「今、俺、獅童としゃべった!!」と喜ぶ長谷川副委員長のすぐ横で、松田委員長が、黙々と作業をしながら、「あ〜あ、中村獅童食べに来ないかな〜?」と何気なく一言。「えっ? 目の前にいたじゃん!!」と思わず中村専務理事がつっこみ。う〜ん、やっぱり松田委員長はある意味大物でした。

(記事:蓼本)

スバル代行 法人(団体)専用カードのお知らせ

新年明けましておめでとうございます。スバル代行の松本です。当社では、かねてから計画しておりました新しいカードシステムを、昨年末から本格的に稼働することになりました。新システムの特徴は、今まで個人会員用に発行していた紙媒体のものを、磁気カードに変更した点と、同じく法人(団体)用に発行していた紙チケットも、写真のようなカード式に置き換えることで、お客様の利便性を高めた点です。

とりわけ法人カードは、月単位で一括してお支払が可能になるため、毎晩の利用時に代行代を気にすること無く、また酩酊した状態で運転手に宛名等の指示を出す必要がありません。私に直接おっしゃって



られれば、翌日には発行できますので、遠慮なくおっしゃってください。

それでは、今年も『飲んだら乗るな、乗るならスバル!』で楽しいお酒をたくさん召し上がってください。

(記事:松本)

これが私の 変革 revolutionize

私にとっての変革とは一体どんな事なのか今回じっくりと考えてみました。食生活の変化に伴い、数年前から我々醤油業界も新たな商品開発を進めなければならなくなりました。皆さんご存知の玉子かけ醤油、ダシ醤油などが

良い例です。もともと多品種、小ロットで大手に対抗してきましたので商品開発については苦にならないのですが、業務用をメインにしてきた関係で家庭用の商品については非常に弱い面がありました。これからも更に細かいニーズに答えていく必要が出てくると思われます。しかしその反面、昔から私の店の醤油を使ってくださっているお客様のためにも決して変えてはいけない味も存在します。変わるのが当たり前、変わることが良いことだという風潮の中で変えてはいけないものを守っていくことも「変革」ではないでしょうか？

折りしも2008年の世相を表す漢字が「変」と発表されました。色々な意味があると思いますが2009年に向けて是非とも良方向に進む「変革」を目指し、決して「変」な方向に流されないようにしたいものです。

(記事:須山)

12月度委員会報告

政治行政委員会

平成20年12月4日(木)於:魚ろばた 海座

出席者/9名

議題/・役員報告
・2月担当例会の件

Neo・ラヴィ委員会

平成20年12月2日(火)於:こうりん坊

出席者/7名

議題/・役員報告の件
・1月担当例会打合せの件

環境問題委員会

平成20年12月9日(火)於:海潮園

出席者/12名

議題/・11月担当例会反省の件
・下期活動計画の件

ビジネス委員会

平成20年12月11日(木)於:炬端かば

出席者/9名

議題/・役員報告の件
・懇親会

エリアデザイン委員会

平成20年12月11日(木)於:海潮園

出席者/10名

議題/・役員報告の件
・担当例会について

広報委員会

平成20年12月8日(月)於:シダックス米子米原クラブ

出席者/13名

議題/・ハンサム編集の件
・『紅白対抗歌合戦』

総務委員会

平成20年12月3日(水)於:焼肉うえば

出席者/14名

議題/・会員拡大の件
・12月忘年例会の件

編集後記

『平成21年の目標』

あけましておめでとうございます。

昨年(平成20年)の「今年の漢字」は『変』でした。良くも悪くも様々な変化があった1年でした。思い起こせば昨年は、仕事の面では経営者の立場になり、家庭の面では父親になり、中央会にも入会させていただきました。変化もたくさんありましたが、とても大変な1年でした。

さて皆さん、今年の目標はもう決まっていますか？

「着くことよりも楽しい道中がよい」ということわざがあります。目標を達成するよりも、目標達成までの過程を楽しむがよい、という意味でもあります。

目標もなくただ毎日を過ごしては、毎日が楽しくないばかりか成長も見込めないと思います。何か目標を立てて、その達成に向かって努力していく過程で得るものが人を成長させるのだと思います。

私も今年の目標を何にしようかと考えているのですが、何も思い浮かびません。昨年立てたはずの目標を思い出そうとしても思い出せません(笑)。こうなったら、来年になっても今年の目標を覚えていることを今年の目標にしてやろうか、と思うくらいです。

冗談はさておき、実は、平成21年まであと少し時間があるので(平成20年12月18日に原稿を書いています)、平成21年の目標は後で真面目に考えることにします。

.....

この考え方を改めることにしました。私の平成21年の目標は「面倒なことを後回しにしない。その時にできることはその時にする。」に決まりました。

この目標を常に意識して1年間生活できれば、きっと大きく成長できるだろうと思います。

平成21年も頑張りましょう。

(記事:野口)

1月役員会報告

1月定例役員会が平成21年1月5日(月)、米子食品会館にて開催されました。当日の主な議題は以下の通りです。

- ・12月忘年例会反省の件
- ・1月例会開催の件
- ・その他

※なお、詳細につきましては各委員長までご参照ください。

1月例会案内

と き:平成21年1月15日(木)19:00~開会

と ころ:鳥取県立武道館

内 容:「高齢者と子どものかかわりを活かして
コミュニティを活性化する方法」

担 当:Neo・ラヴィ委員会